



東北大学

平成 24 年 11 月 27 日

報道機関 各位

東北大学金属材料研究所

材料科学国際サミットおよび材料科学国際週間 2012 の開催 Summit of Materials Science Materials Science Week 2012

東北大学金属材料研究所（所長：新家光雄）は、このたび、内外からの著名研究者 20 余名を招待して、「材料科学の賢者が金属材料研究所につどう」をキャッチフレーズに次の期間、**材料科学国際サミット**を開催します。併せて関連する研究会等の協賛行事からなる**材料科学国際週間**が行われ、多くの研究者が仙台を訪問します。（6 イベント 約 1,000 名参加予定）。この主要な行事である、**材料科学国際サミット**に関して、その内容をこのたび公開致します。

【実施期間】平成 24 年 11 月 28 日（水）～平成 24 年 11 月 30 日（金）

【場 所】東北大学金属材料研究所 講堂

案内のホームページは以下の通りです。別紙 1 をご覧ください。

<http://www-lab.imr.tohoku.ac.jp/~msw2012/>

本サミットの組織委員会はノーベル賞受賞者を含む 10 名の国際諮問委員と金属材料研究所の教授から構成されています。（別紙 2）

講演者は、世界 8 カ国 20 名の著名研究者であり、サミットの名に相応しい講演者の陣容となっております。（別紙 3）

会議では、現在の社会が直面するエネルギーや環境問題をはじめとした諸課題に関して、材料科学がどのように貢献できるか、また、材料科学の現在と未来はどのようにあるべきかなどについて、昨年度の材料科学国際宣言 2011（別紙 4）にもとづいて、討議され、合計で、130 件の発表が行われます。

参加者は、会議終了後の 12 月 1 日に、南三陸町および石巻市を訪問し、震災の現状に関しても、現地の方々と交流を行う予定です。

日程

11 月 28 日（水）9:00-17:55 開会式および講演

11 月 29 日（木）9:00-18:00 講演およびポスター発表

11 月 30 日（金）9:00-16:15 講演および閉会式

参加費無料（市民の参加・聴講可）

詳細については、下記にお問い合わせください。

東北大学金属材料研究所 庶務係

Tel: 022-215-2181 Fax: 022-215-2184 e-mail: imr-som@imr.tohoku.ac.jp

材料科学国際週間事務局 教授 野尻浩之

Tel: 022-215-2015 Fax: 022-215-2016 e-mail: nojiri@imr.tohoku.ac.jp



Overview
Committee
Invited Speakers
Program
Important Dates
Registration and Abstract
Banquet, Tour and Hotel
Venue
Practical Information
Satellite Workshop

Welcome

Materials Science Week 2012: MSW2012 November 25 - December 1, 2012

It is our great pleasure to invite you to attend MSW2012 in Sendai, Japan, November 25-December 1, 2012. Last year, the IMR held the 1st Materials Science Week 2011 to activate international collaborations and exchanges in materials science. At MSW2011, the international declaration of materials science 2011 in Tohoku was signed by researchers from more than 60 institutes in 20 nations. Over 2000 participants joined the conferences and events of MSW2011. This success illuminates the international solidarity of the materials science community and importance of international exchange in our field. Therefore, IMR has decided to continue these efforts and to hold MSW2012, which consists of a central conference called "Summit of Materials Science: SMS2012", as well as satellite conferences, associated events and a public lecture.

IMR wishes that MSW2012 will further stimulate the international exchange and collaborations in materials science. On behalf of the organizers, I am pleased to invite you to join this event.



The Chairman of MSW2012
Prof. Mitsuo Niinomi
Institute for Materials Research, Tohoku University



Committee

Organizing Committee

Chairman Prof. M. Niinomi

G. E. W. Bauer

T. Goto

T. J. Konno

H. Nojiri

S. Orimo

E. Saitoh

K. Takanashi

Y. Satoh

Program Committee

G. E. W. Bauer (IMR)

T. Goto (IMR)

T. J. Konno (IMR)

H. Nojiri (IMR)

K. Ohyama (IMR)

S. Orimo (IMR)

E. Saitoh (IMR)

K. Takanashi (IMR)

S. Uda (IMR)

International Advisory Committee

Samuel D. Bader

Argonne National Laboratory, USA

Yi-Bing Cheng

Monash University, Australia

Rudolf Gross

Walther-Meißner Institute, TUM, Germany

Peter Grünberg

Forschungszentrum Jülich, Germany

Junichiro Kono

Rice University, USA

Sang Ho Lim

Korea University, Korea

Je-Geun Park

Seoul National University, Korea

Sam Zhang

Nanyang Technological University,
Singapore

Timothy Ziman

ILL and CNRS, France

Andreas Züttel

EMPA Materials Science and Technology,
Switzerland

材料科学国際宣言東北 2011
-より良き世界の構築へ材料科学からの貢献-

東北大学金属材料研究所は、材料科学分野における世界的な研究の中心の1つとして、長年にわたって活動を続けてきました。そのなかで、東北大学の研究中心・実学尊重・門戸開放の理念の下に、活発な研究活動を展開してきました。その成果として、数々の社会に貢献する材料を世に送り出してきたことは広く知られています。また、長年にわたり国際交流を通じて、材料科学分野における世界との協力を進めて来ました。こうした多くの成功にも関わらず、エネルギー、環境問題、情報、通信、社会基盤、医療などに関する多くの問題が材料科学の課題として残されていることを、関係者は日々認識をし、“努めてやむな”という本多博士の言葉の通り、精力的な活動を進めてきました。それは、材料科学に課された使命の重要性を深く認識する故でした。

去る2011年3月11日に起こった東日本大震災は、東北地方を中心に大きな破壊をもたらし、まだ、社会はその復旧の途上にあります。さらに、震災によってもたらされた福島原子力発電所の事故や電力の不足などは、材料科学における多くの課題の存在を浮かび上がらせました。これらの課題は、新しい問題もあれば、従来からその解決の努力が行われてきた継続的な課題もあります。さらに、重要なことは、今回の災厄と同様な悲劇は、世界のあちこちで、幾度も繰り返されていることです。それらの災厄の影響は、東日本大震災と同様に、発生した国にとどまらず世界全体に深い影響を与えます。このことは、我々の社会には多くの解決すべき問題があり、その解決に材料科学の貢献が求められているということをあらためて強く認識させるものです。

我々、東北大学金属材料研究所および国際的な協力関係にある世界の諸機関と研究者は、悲劇が歴史に刻まれた今年2011年、このような材料科学の責務をあらためて深く共有し、よりよき世界の構築のために努力を傾けること決意し、そのために以下の3つの課題を推進することをここに宣言します。

1. エネルギー、環境保全、安全、情報・通信、社会基盤、医療など、多様な人類の重要課題の解決のために、材料科学はその努力を継続します。
2. 材料科学の共通の課題の解決へ国際的な協力関係を強化し、研究活動を加速します。
3. 材料科学において見いだされた知識と成果が、社会のものであることを認識し、その情報の公開を進めます。市民や社会との交流を深めるために、材料科学の成果が社会の理解と支援のもとに還元されるように努力を行います。

これらの活動は、これまでの災厄の傷を癒し、あらたな災厄を防ぎ、そしてその影響を軽減するために貢献するでしょう。我々は、材料科学におけるこの新しい挑戦の灯火が、この東北の地から世界を照らすことを確信します。

2011年10月11日